

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 I A(0063)
科目基礎情報					
科目番号	0076		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	産業システム工学科環境都市・建築デザインコース		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	『Prominence English Communication I』東京書籍.Prominence Workbook. 『Atlas総合英語』、桐原書店. 『速読英単語入門編』Z会 2 0 1 2 .				
担当教員	菊池 秋夫, 齋藤 育夫				

到達目標
 中学校での既習事項を確実に身につけ、基本的な文の構造が理解できる。辞書の使い方を身につけ、必要に応じて活用できる。読解教材レベル 1（300-400語レベル）を辞書なしであらすじを理解することができる。

ルーブリック			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	中学校での既習事項を確実に身につけ、基本的な文の構造が理解できる	中学校での既習事項を確実に身につけ、基本的な文の構造が6割以上理解できる	中学校での既習事項を確実に身につけ、基本的な文の構造が4割以上理解できる
評価項目2	辞書の使い方を身につけ、必要に応じて十分に活用できる。	辞書の使い方を身につけ、必要に応じて活用できる。	辞書の使い方を身につけ、必要に応じてある程度活用できる。
評価項目3	読解教材レベル1（300-400語レベル）を辞書なしであらすじを理解することができ、未知語を推測できる。	読解教材レベル1（300-400語レベル）を辞書なしであらすじを理解することができる。	読解教材レベル1（300-400語レベル）を辞書を使ってあらすじを理解することができる。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等	
概要	英語 4 技能のバランスのとれた発達を促すという教科全体の目標の中で、この科目では、中学校での既習事項を復習しながら、基礎的な文法・語法・語彙などをさらに学ぶ。語彙力は、高校 1 - 2 年生でマスターしておきたい基本語 4 0 0 - 5 3 0 語を身につける。
授業の進め方・方法	齋藤担当分では、高等学校外国語科英語I用文部科学省検定済教科書を用いて、英文の読解、文法事項の解説、語句の活用練習、発音練習、文化的背景の説明を行う。毎週小テストを実施する。
注意点	1) 週2回授業があるが、1回の授業の家庭学習は約1時間求められる。予習として教科書の本文を黙読して本文の質問に答え、何度も音読すること。さらに、単語・熟語を調べ、指定された箇所の意味を日本語で書くこと。 2) 読解力を伸ばすために、ショート・リーディングの課題を毎週すること。週1回、単語・熟語を中心とした小テストを行う。 3) 英語力向上においては、学生自身による反復練習を含む授業以外での学習なしではありえない。ラジオやテレビの英語学習番組を視聴したり、字幕付き洋画を見たり、英字新聞を読むなどの自習も求められる。

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	We Are Together: 文構造	文構造を判別できる
		2週	We Are Together: 動名詞	動名詞を活用できる
		3週	Animal Emotions : 形式主語	形式主語を使用できる
		4週	Animal Emotions : 現在完了形	現在完了形を使用できる
		5週	One Ocean, One People : 関係代名詞	関係代名詞を説明できる
		6週	One Ocean, One People : 分詞の後置修飾	分詞を理解できる
		7週	文法のまとめ: 時制、準動詞	
		8週	到達度試験	
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	3	
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	3	
				英語の発音記号を見て、発音できる。	3	
				リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	3	
				語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	3	
				文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	3	
				中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	3	
				自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	3	

				中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	3	
				高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	3	
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	3	

評価割合

	試験	宿題と小テスト	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0